



対日平和条約受諾演説の原稿（外務省外交史料館）



青い目の人形「メリー」(当館寄託)

目次

① 展示紹介

外務省外交史料館・茨城県立歴史館共催

特別展 日本外交のあゆみ

② 収蔵史料（資料）紹介

歴史資料課 外科医佐藤進と日清戦争

行政資料課 昭和44年度撮影茨城県全域航空写真 関係資料

学芸課 神君家康と奇才慶喜—当館所蔵資料から—

③ トピックス

特別展Ⅰ 外務省外交史料館・茨城県立歴史館共催 「日本外交のあゆみ」

【会 期】平成27年10月10日（土）～平成27年11月23日（月・勤労感謝の日）

前期：10月10日（土）～11月1日（日） 後期：11月3日（火）～11月23日（月）

※休館日 10月13日（火）、19日（月）、26日（月）

11月2日（月）、9日（月）、16日（月）

江戸時代末まで、幕府によって貿易が統制されるなか、いわゆる「四つの口」を通して、海外の情報が日本にもたらされてきました。今から約160年前にペリーが軍艦4隻を率いて来航したことはわが国の外交史上に大きな区切りとなりました。わが国は、日米和親条約の調印を機に西洋諸国の国際法秩序に参加することになったのです。

明治時代は、条約改正、国家の近代化という大きな課題をかかえ、大正時代は新しい世界秩序・国際協調の時代を迎えました。昭和時代は、孤立と戦争・降伏を経験しますが、その後主権を回復し、再び新たな国際関係構築のあゆみを始めます。

政府や外交官は、国民の生活を守り、国を発展させる重責を担い、多くの困難を乗り越えてきました。一方、民間レベルでの関わりも外交には欠かせないものです。当時の渡航記録、民間交流の記録などからは、日本人の目に映る世界や、世界の人々が日本をどのように見たかを探ることができます。

外務省外交史料館が所蔵する史料が、今回のように一挙に公開されるのは国内で初めての試みです。特に条約は、様々な岐路において、英知を集め締結したものであり、国際社会での日本のあゆみを示すものです。本展では、条約を中心に外交に関する史資料を展示し、幕末期から昭和時代にかけての日本外交のあゆみをたどります。

展示構成および主な展示史料は、以下のとおりです。

第1章 幕末期の外交

1. 列強の来航

2. 日米和親条約

3. 安政の五カ国条約

江戸幕府の「四つの口（長崎、対馬、薩摩、松前）」を通じた国際関係から、和親条約・修好通商条約の締結により、近代ヨーロッパの法秩序による国際関係へと組み込まれていく過程を紹介します。また、トピックとして開国への大きなきっかけをつくったペリー、幕末の三俊の一人である外国奉行岩瀬忠震、日本人の力で初めて太平洋横断を成功した咸臨丸などをとりあげます。



朝鮮国王純祖国書に対する将軍徳川家斉返書
(外務省外交史料館)



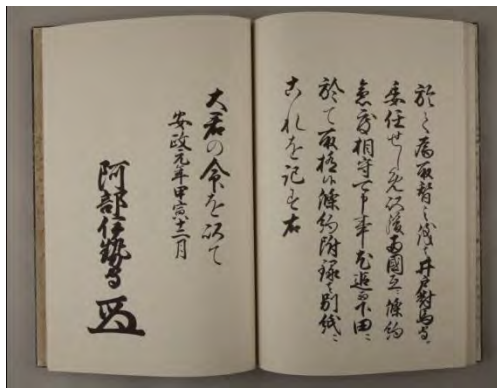
文政六年湊沖異国船接近之図
(当館)



横浜上陸図 「ペリー日本遠征の石版画」
(凸版印刷株式会社 印刷博物館)



ペリー肖像 (東京国立博物館)
Image: TNM Image Archives



ペリー提督日本遠征記 第一巻
(外務省外交史料館)



日米和親条約 (批准書) [複製]
(外務省外交史料館)



国指定重要文化財 日米和親条約 (批准書交換証書) (外務省外交史料館)



国指定重要文化財 日米約条 (下田条約)
(外務省外交史料館)



咸臨丸難航図
(木村家所蔵・横浜開港資料館保管)

第2章 明治時代の外交

1. 明治初期の外交

2. 条約改正交渉

3. 明治後期の外交

外務省が創設され、近隣諸国との新たな関係を構築し、条約改正交渉や国境問題などの課題に取り組んでいく過程を紹介します。また二度の戦争を経験し、近代国家として成長しつつある日本を、講和条約関係の史資料を通して紹介します。トピックとして、鹿鳴館や明治時代を代表する外務大臣陸奥宗光、茨城県出身の名医佐藤進などを紹介します。



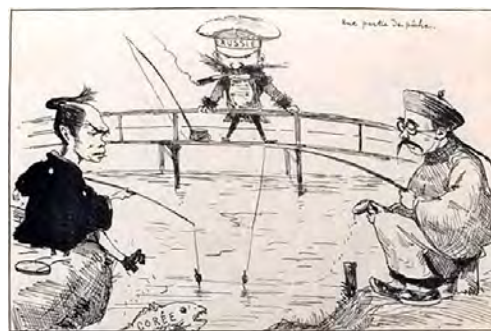
日清修好条規（調印書）（外務省外交史料館）



樺太千島交換条約（批准書）
（外務省外交史料館）



大津事件関係資料（滋賀県立琵琶湖文化館）



魚釣り遊び（漁夫の利）『トバエ』 第1号
（川崎市市民ミュージアム）



下関講和談判（下図）（明治神宮）



日清講和条約（調印書）（外務省外交史料館）

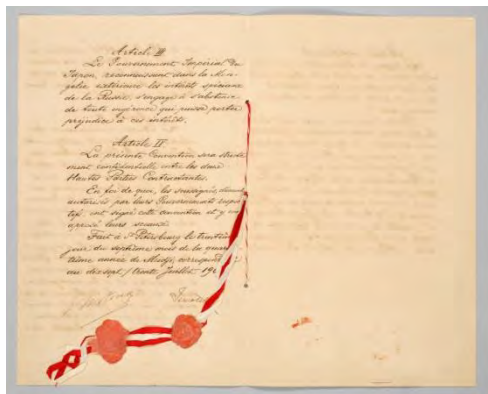
第3章 大正時代の外交

1. 第一次世界大戦

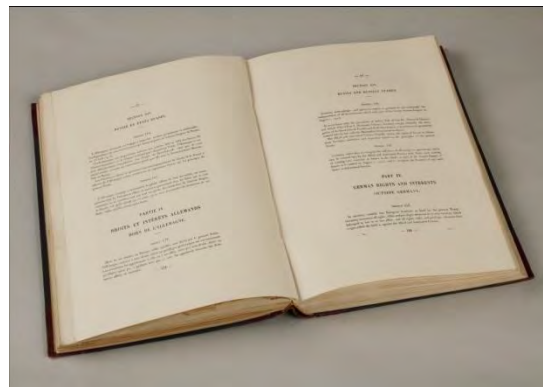
2. ヴェルサイユ体制

3. ワシントン体制

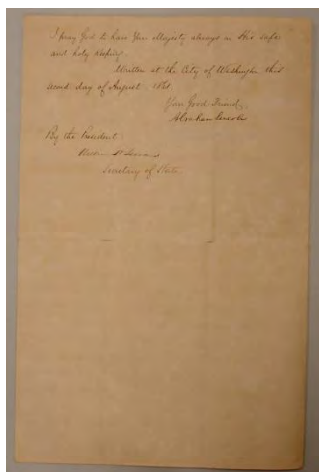
日露戦争に勝利した日本は、五大国として国際連盟の常任理事国となり、国際的立場を高めることになります。日本が大陸（中国）への影響力を拡大していく様子や、第一次世界大戦後の協調外交への動きを紹介します。また、トピックとして日米人形使節や職業野球団訪日などの文化交流、各国から送られる国書・親書について取り上げます。



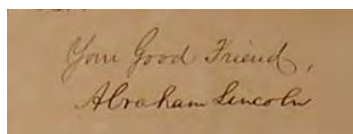
第1回日露協約調印書 機密の部
(外務省外交史料館)



ヴェルサイユ講和条約（認証謄本）
(外務省外交史料館)

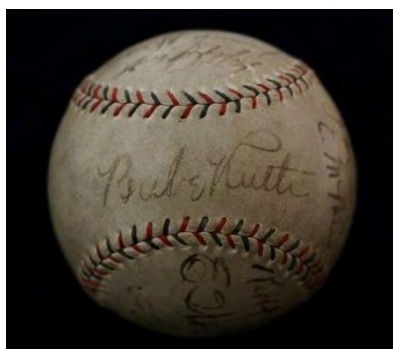


アメリカ大統領リンカーン親書
(外務省外交史料館)



オーストリア・ハンガリー帝国皇帝フランツ・ヨーゼフ親書

(外務省外交史料館)



ベーブ・ルースのサイン入り ボール
(野球殿堂博物館)



青い目の人形「メリー」
(当館 寄託)

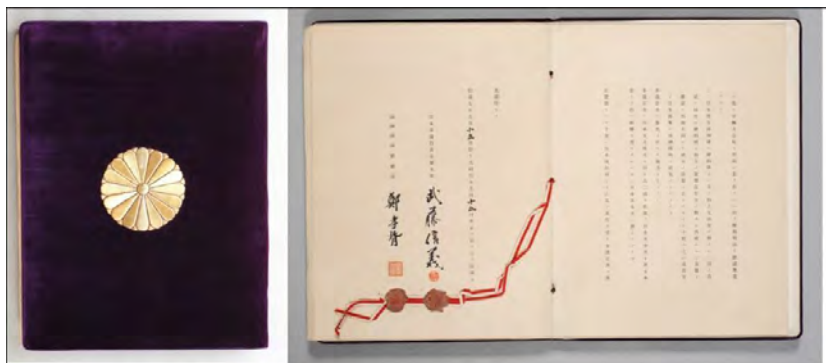
第4章 昭和時代の外交

1. 孤立する日本

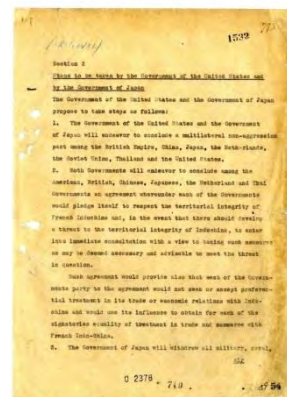
2. 戦争の長期化

3. 占領から独立へ

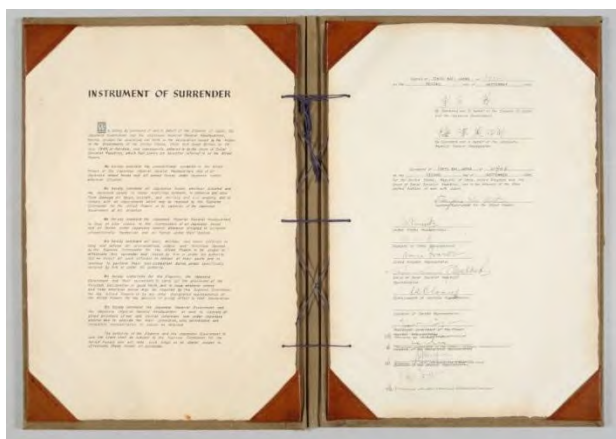
第一次世界大戦後の景気の悪化や各国の利害関係から、徐々に協調体制が崩れていきます。日本は、中国への権益を強めるため、「満州国」の建設など独自の外交を歩みはじめます。敗戦・占領そして独立と大きく変動する昭和時代の外交を紹介します。また、トピックとして、万国博覧会、旅券の変遷、吉田茂を取り上げます。



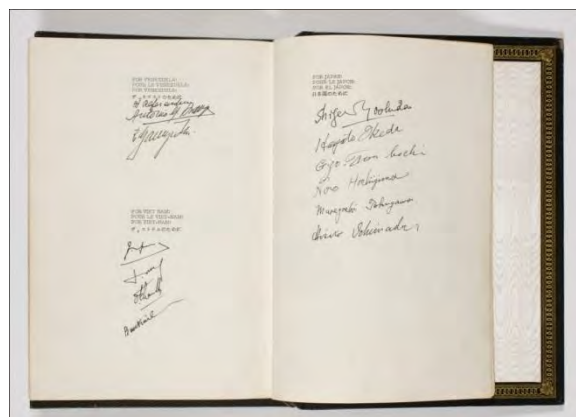
日満議定書（調印書及び往復文書）
（外務省外交史料館）



ハル・ノート
（外務省外交史料館）



降伏文書（外務省外交史料館）



対日平和条約（外務省外交史料館）



対日平和条約受諾演説の原稿（外務省外交史料館）



金側葵紋付徳川昭武肖像入懐中時計
（松戸市戸定歴史館）

【会期中の関連行事】

1. 講演会 日時：平成 27 年 10 月 25 日(日) 14 時から
演題：「人物でたどる日本外交の歩み
―陸奥宗光から吉田茂まで―」
会場：茨城県立歴史館 講堂
講師：波多野 澄雄 氏 (筑波大学名誉教授)
定員：200 名(要入館券)
2. 展示解説 日時：平成 27 年 10 月 12 日(月) 午前 11 時から 午後 1 時 30 分から
平成 27 年 11 月 8 日(日) 午前 11 時から 午後 1 時 30 分から
平成 27 年 11 月 13 日(金・県民の日) 午前 10 時から
午後 1 時から
(各回とも 45 分)
会場：茨城県立歴史館 展示室(要入館券)
担当：茨城県立歴史館主任研究員 綿引 博
3. 外務省外交史料館職員による展示解説
日時：平成 27 年 10 月 31 日(土) 13 時 30 分から
会場：茨城県立歴史館 展示室(要入館券)
担当：外務省外交史料館 外交公文書編纂官 富塚 一彦 氏
4. 小・中学生むけ展示解説
日時：平成 27 年 10 月 17 日(土) 午前 11 時 30 分から
平成 27 年 11 月 7 日(土) 午前 11 時 30 分から
5. ミニ講座 日時：平成 27 年 10 月 18 日(日) 「日本外交百年 前編」
平成 27 年 11 月 21 日(土) 「日本外交百年 後編」
各回とも午後 2 時から
会場：茨城県立歴史館 (要入館券)
担当：茨城県立歴史館主任研究員 石井 裕
6. パスポートをつくろう
日時：平成 27 年 11 月 7 日(土) 午前 10 時から
会場：茨城県立歴史館 講堂

(史料学芸部 学芸課 主任研究員 綿引 博)

外科医佐藤進と日清戦争

1 佐藤進と李鴻章狙撃事件 ―下関の史蹟から―

明治28年(1895)3月20日、日清講和談判のため、清国欽差頭等大臣李鴻章が全權大使として来日した。李鴻章、生涯初となる海外出国であったとされる。談判場となった下関市の料亭^{しゅんぱんろう}春帆楼では、「東洋のビスマルク」を自認する二人の政治家・伊藤博文と李鴻章が、天津条約以来約10年振りとなる邂逅を果たした。

二六新報の記者平田骨仙^{いんじょうじ}の3月23日付報告には、「引接寺前 昼夜の別なく常に市を為す是れ四方雲来の群集が如何にもして李翁が面相を一見し以て国許への土産となさんと欲するなり」(『二六新報』3月29日付)とあり、72歳にして初めて海外にその姿を現した李を一目見ようと、雲霞の如き野次馬が談判場近辺を埋め尽くしていた事がわかる。



【写真1】現在の春帆楼（左）と日清講和記念館（右）



【写真2】春帆楼に建つ伊藤博文・陸奥宗光像（左）と春帆楼の史蹟指定碑（右）

※ふぐ料理公許第一号店として知られる料亭春帆楼（【写真1】）は、昭和20年6月29日と7月2日の下関空襲によって全焼し、現在の建物は戦後再建されたものである。同所には伊藤と陸奥の胸像（【写真2】）と「史蹟春帆楼 日清講和談判場」の石碑（【写真3】）が建ち、そ

の隣には講和談判に関する史料を展示した日清講和記念館が建っている。同館内には、永地秀太の有名な絵画「下関講和談判」（明治神宮聖徳記念絵画館）の構図そのままに、戦災を免れた椅子等の調度品を含む当時の談判場が再現されており、往時の緊迫感を伝えている。



【写真4】日清講和記念館に再現された談判場（左）と李鴻章が座った椅子（右）

3月24日、第三回講和談判からの帰途、清国全権李鴻章が暴漢小山六之助（本名豊太郎、26歳）に狙撃されるという驚くべき事件が発生した。午後4時41分頃、見物人の群衆を掻き分けて李の轎の正面に出た小山は、左手で轎を押さえ、右手で李の胸部に照準を合わせて引き金を引いた。発射の反動で（または輿丁の声で李が右を向いた結果）銃丸は上方に逸れ、李の眼鏡を砕いて左眼下に射入し、貫通する事なく顔面に留まった。李はガクッと轎上で崩れ落ち、それを見た小山は「仕遂ケタ」（『司法資料』第232号、昭和12年）と思い、止めの二発目を発することなく、阿部恒次郎陸軍憲兵上等兵に取り押さえられた。李は傷口から溢れ出る血をハンカチで押さえ、轎が宿舎引接寺の玄関まで辿り着くと自ら歩いて寝室に入ったという。

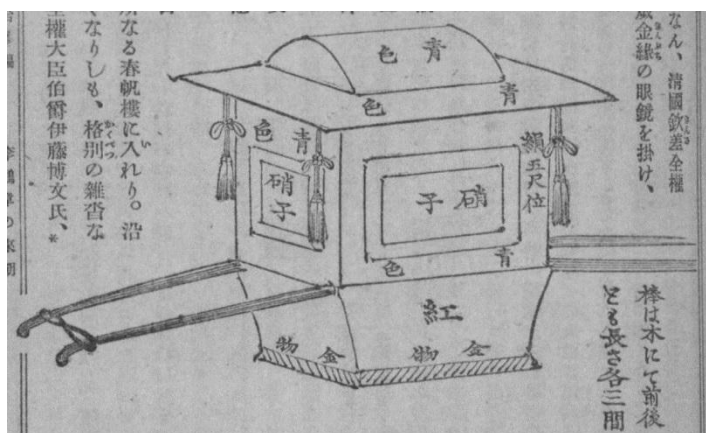


【写真5】狙撃事件の現場（左の民家の奥カ）



【写真6】現在の引接寺山門

※下関市は昭和 20 年 6 月 29 日と 7 月 2 日の空襲によって焼け野原と化し、戦後に街区の再整理がされたため、現在、李鴻章狙撃事件の現場は民家が密集する中に埋没してしまっており（【写真 5】）、指標となる石碑等は建っていない。



【史料 1】李鴻章が乗っていた轎（『日清戦争実記』第 23 編，明治 28 年 4 月）

急報を受けた日本全権団は、直ちに広島予備病院長佐藤進陸軍軍医総監の急派を決定する。事件発生から僅か 20 分後、午後 5 時至急別電で日本全権団の伊東巳代治内閣書記官長は「佐藤軍医総監ヲ急招シ」た事を伝え、佐藤は午後 6 時に大本営陸軍部運輸通信長官寺内正毅陸軍少将に見送られて宇品港を発し、下関へと向かった。

李の負傷は意外に軽傷であり、佐藤の治療が宜しきを得た事などから、李は 4 月 10 日の第五回談判から復帰を果たす。事件直後、慰問に訪れた伊藤に、李は「斯る事は多少覚悟し居たり」（『東奥日報』3 月 28 日付）と気丈に語ったと伝えられたが、談判復帰に際しては、引接寺裏門を取り壊し、表通り（阿弥陀寺町通）ではなく裏手の山道を選択して「殆んど駆足し」で「恰も後ろより化物にても追れつゝあるか如き有様」で春帆楼と引接寺を往復したと、再度の襲撃への恐怖におののく「李爺の狼狽の状」が伝えられた（『福島民友』4 月 23 日付）。

講和談判の進展に合わせ、日本の報道機関が描く李鴻章像も二転三転していた。



【写真 7】「李鴻章道」（右上が春帆楼）



【写真 8】「李鴻章道」（中央奥が春帆楼）

※狙撃事件後に李鴻章が談判場との往復に使用した裏手の小径は、現在「李鴻章道」として整備され、下関東ロータリークラブの観光案内板が設置されている。事件当時、春帆楼で陸奥宗光外相と打合せをしていた清国全権団の李経芳が、養父李鴻章の急報を聞いて引接寺へと急行した「山道伝ひ」（『芸備日日新聞』4月3日付）の道でもある。

2 佐藤進と日清戦争記念碑 — 「社会ニ対スル義務」 —

佐藤進は、弘化2年（1845）11月25日、常陸国久慈郡太田村の酒造家高和清兵衛・たみの長男として生を享けた。若宮八幡宮の寺子屋、郷校益習館に学び、安政6年（1859）に叔父佐藤舜海（第二代順天堂主）のもとに居を移して医術を学んだ進は、明治2年（1869）にプロシアに留学、同7年に「スエズ以東で初」とされる、アジア人で最初のドクトル（医学博士）となった。その後、第三代順天堂主として活躍する進の評価を決定的に高めたのが、日清講和談判中に狙撃された李鴻章の主治医を担当したことであった。



【史料2】日清戦争当時の佐藤進
（『餐霞録』私家版，大正4年）



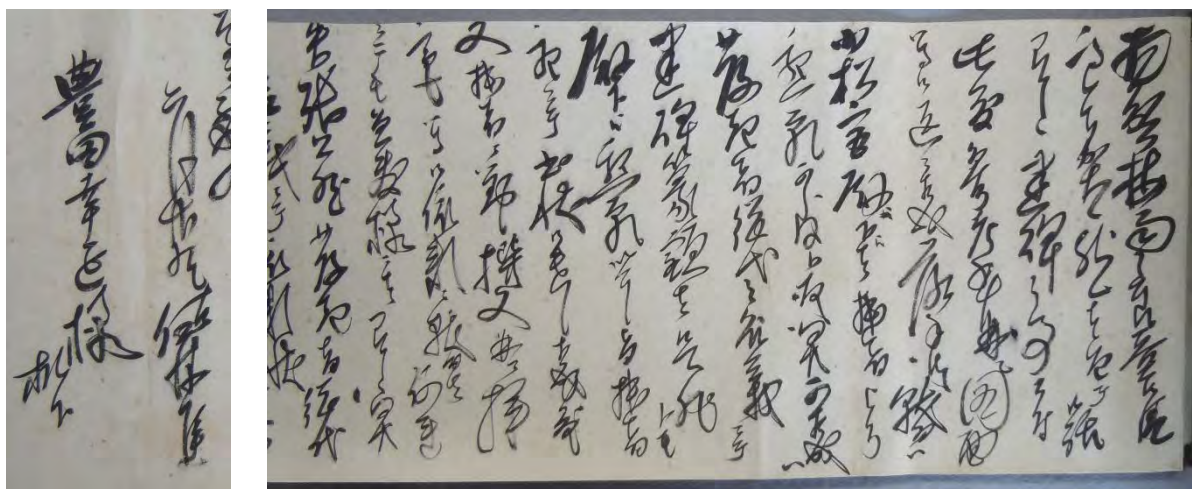
【写真9】征清殉難之碑
（常陸太田市若宮八幡宮）

※若宮八幡宮の日清戦争記念碑は、日本国内の他の記念碑等（二宮金次郎像を含む）で同様の事例があるように、昭和20年（1945）12月15日のGHQの神道指令に基づく撤去命令から免れるため地中に埋め、サンフランシスコ講和条約発効後に戻されたと伝えられている。

佐藤進の生家、常陸太田市のヨネビシ醤油（旧高和酒造）に隣接して、幼少期に進が学んだ若宮八幡宮がある。その境内を進むと本殿右奥の駐車場に3つの巨大な石碑が建っており、

その一つが日清戦争記念碑である（【写真9】）。小松宮彰仁親王の篆額「征清殉難之碑」を掲げた同碑には、明治29年（1896）9月6日付の佐藤進による撰文があり、「此役我茨城県久慈郡壮丁従第一師団及近衛師団者二百余人、転戦各地奮進勇往殉難者二十又二人、頃日同郡有志者相謀欲建碑太田坊八幡、祠側伝其姓名於不朽請余銘、余亦当時従大纛^{たいとう}在広島監督衆医悉療戦地患者、而太田坊吾旧里是以感愴最深矣」と銘記されている。日清戦争殉難者22名を称える記念碑建立に際して、広島予備病院長、陸軍軍医総監、そして李鴻章の主治医として活躍した佐藤進と「旧里」久慈郡太田町（明治14年（1881）7月に町制に移行）の精神的な紐帯を感じさせる一文である。

【史料3】「豊田幸延宛佐藤進書状」（根本氏収集史料）



拝啓梅雨之節益御清
 慮奉賀候然者兼テ御話
 有之候建碑之事ニ付
 此度参考書并ニ図面
 等御送ニ相成落手仕候就而ハ
 小松宮殿下江ハ拙者より
 懇願可致ト存候得共可相成ハ
 発起者総代之名義ニテ
 建碑篆額ハ是非トモ
 殿下江懇願いたし候旨拙者
 宛ニテ書状御遣し相成度候
 又拙者ニ勤候撰文并ニ揮
 毫等御依頼ニ就而ハ何れ
 ニテモ宜敷様ニハ有之候得共
 矢張公然発起者総代

（中略）

六月廿九日 佐藤進

豊田幸延様

机下

この書状は、茨城県文化財保護審議委員や日立郷土芸能保存会長等を務め、日立風流物等民俗芸能の保存・復元に尽力された根本^{かしお}甲子男氏の収集史料の一つである（ご当家から当館に寄贈の申込みがあり、現在整理作業中である）。宛先の豊田幸延は幕末の本圀寺党の一員で、維新後は若宮八幡宮祠官や太田協同銀行頭取、太田鉄道取締役常任等を務め、太田町の発展に尽力した地元の名士である。同書によれば、どうやら建碑運動の中心であった豊田が、日清

戦争で全国に名を馳せた郷里の英雄、佐藤進に撰文と寄附を依頼し、併せて日清戦争で征清大総督や陸軍参謀総長等を務めた小松宮彰仁親王への篆額の斡旋を依頼したようである。小松宮彰仁親王への斡旋を依頼したのは、佐藤が彰仁親王の母伏見宮景子大妃の乳癌手術（無麻酔）を執刀しており、宮家との繋がりを期待されてのことであろう。

同書の中で、佐藤は「近来御承知之通り社会ニ対スル義務益々繁多之時節ト相成候」と述べている。前年に治療を担当した李鴻章から「貴官ハ東洋第一の名医なり」（『都新聞』明治28年4月2日付）と称賛された佐藤は、日清戦争の経験と李鴻章の主治医という名声を基に、日露戦争での陸軍軍医総監、そして大韓医院の初代院長就任など、明治日本を代表する医家へと更なる飛躍を遂げることになる。



【写真 10】佐藤家墓所（吉祥寺，東京都文京区）



【写真 11】正三位勲一等男爵佐藤進墓（吉祥寺）

※佐藤進は大正10年（1921）7月25日に急性肺炎で死去した。進の墓所は、親類にあたる榎本武揚と同じ東京都文京区の吉祥寺にある。向かって正面が進、左が妻静子、右が明治45年（1912）36歳でこの世を去った長男昇の墓碑である（【写真10】）。進の後継、第四代順天堂主には養子達次郎が就任した。実子昇を差し置いて堂主となった達次郎は、進の養子になる際に「進先生ニハ男子〔昇〕モ御座候ヘドモ技術ノ相続人タルニ足ラザルヲ以テ殊ニ技倆ニ見込アルモノヲ撰テ継続セシメントノ考ニ有之候」（『順天堂史』上巻）と佐藤家相続の厳しさを知人に伝えている。

泰然から養子舜海（尚中）、そして養子進へと受け継がれた佐藤家、順天堂の「技術ノ相続人」という厳しい自戒と責任の重さを、佐藤進の生涯から垣間見ることができる。

※外科医佐藤進に関しては、特別展「日本外交のあゆみ」（10月10日～11月23日開催）のトピックコーナーで採り上げます。

<参考文献>

- ・石井裕「佐藤進と李鴻章狙撃事件―日清講和談判の一局面―」（『茨城県立歴史館報』第42号，平成27年）
- ・森田美比『外科医佐藤進』（常陸太田市，昭和56年）
- ・『順天堂史』上巻（順天堂大学，昭和55年）
- ・『写真で見る順天堂史 175年の軌跡』（学校法人順天堂，平成26年）

（史科学芸部 歴史資料課 主任研究員 石井 裕）

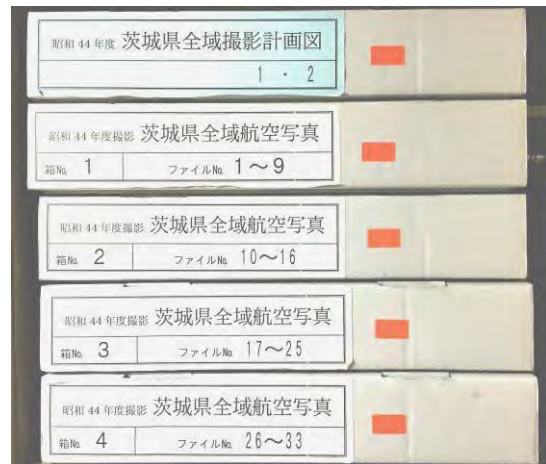
昭和 44 年度撮影茨城県全域航空写真 関係資料

行政資料課で公開している 2 資料, 写真資料「茨城県全域航空写真(昭和 44 年度撮影)」と県庁移転時収集行政文書「昭和 43 年度～昭和 44 年度 空中写真撮影関係綴」(県移 68-7)を紹介します。



【茨城県全域航空写真(昭和 44 年度撮影)】

「茨城県全域航空写真(昭和 44 年度撮影)」は, 昭和 44 年に高度約 2,300～3,000m から県内全域を撮影した航空写真資料(縮尺 1:15,000)です。写真帳 274 冊を, 全 37 箱に整理し, 保存しています。付属の「茨城県全域撮影計画図」には, 県内の撮影ルートが示されており, 県内を 54 に分割し, 1～54 のコースを西から東へ飛行して撮影されたことがわかります。当時の県土全域の状況がわかる貴重なものです。



2 地点の航空写真を紹介します。



これは、昭和 44 年の千波湖周辺の写真です。以前、千波湖は水戸駅南側まで広がっていましたが、干拓されました。昭和 39 年に水戸駅南土地区画整理事業が始まり、昭和 44 年当時、水戸駅南には整地中の土地が広がっていることがわかります。さて、現在の歴史館の敷地には、昭和 45 年度まで県立水戸農業高等学校がありましたが、どこかわかりますか？



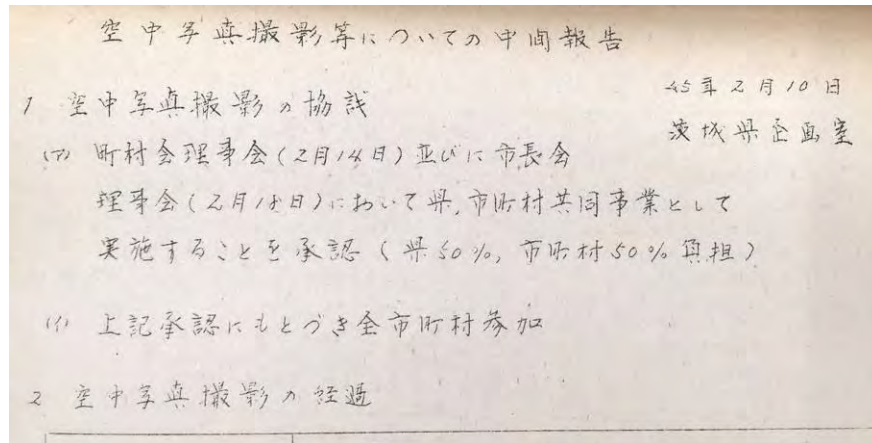
これは昭和 44 年の日立港です。久慈川河口付け替え工事前の様子で、港周辺の地形が現在とは大きく異なっています。

2 例のみ紹介しましたが、当資料では昭和 44 年当時の県内全域の航空写真を網羅しています。

【昭和 43 年度～昭和 44 年度 空中写真撮影関係綴】(県移行 68-7)

県庁移転時収集行政文書「**昭和 43 年度～昭和 44 年度 空中写真撮影関係綴**」(県移 68-7)は、前述の「茨城県全域航空写真（昭和 44 年度撮影）」の事業について、県の企画室が昭和 43 年度から昭和 44 年度までに作成したものです。「県庁移転時収集行政文書」とは、平成 11 年の県庁移転時に、膨大な量の県行政文書の減量化が実施され、これに伴い歴史館で収集したものです。





当資料中の「空中写真撮影等についての中間報告 昭和45年2月10日茨城県企画室」という文書をみると、昭和44年2月に、町村会理事会及び市長会理事会を開き、県・市町村の共同事業（県50％、市町村50％の負担）として実施することの承認を得たことがわかります。

その他、前述の町村会・市長会理事会資料、各市町村負担金計算資料、空中写真成果検査記録書なども綴られております。航空写真撮影事業実施の経緯等が示されており、実際の航空写真資料をより興味深くご覧になることができると思います。



今日では、インターネット上で上空から撮影した写真を容易に見ることができます。今回紹介した昭和44年撮影の航空写真資料を利用することで、県内全域について、40年以上前の姿と現在の姿を比較することができます。学校の学習の場にも活かすことができるのではないのでしょうか。

県庁移転時収集行政文書は、現在も閲覧公開に向けて整理作業を継続しています。紹介しました「昭和43年度～昭和44年度 空中写真撮影関係綴」（県移68-7）を含めた、大正11年～昭和49年発生文書を公開中です。

行政資料課の2資料を紹介しましたが、いずれも歴史館閲覧室で閲覧することができます。展示見学と合わせてご利用ください。

（史料学芸部 行政資料課 首席研究員 小倉 朗）

神君家康と奇才慶喜 ―当館所蔵資料から―

江戸幕府の開祖である徳川家康(1542-1616)が没してから、来年は400年の節目の年をむかえる。これを記念して当館では、テーマ展「家康・頼房と水戸東照宮」(平成27年8月29日～9月27日)を開催し、家康ならびに徳川政権と茨城県域との関わりに焦点を当て、関係する史資料を展観した。

一方で一昨年は、最後の将軍となった徳川慶喜(1837-1913)の没後100年の記念年でもあった。これを記念して開催した当館の特別展「徳川慶喜」(平成27年2月7日～3月22日)では、皇族と将軍家の双方につながるその血脈に注目し、また出身藩である水戸藩がその生涯にあたえた影響の一端を考察した。

ここでは、江戸幕府の最初と最後を飾るふたりの将軍の接点を示す資料を、当館所蔵品のなかから2点紹介する。

1. 東照宮神影 とうしょうぐうしんえい 文久3年(1863)3月／個人蔵(当館寄託)



東本願寺(京都)に伝わった徳川家康の肖像画の模写である。家康は、「東照大権現」とうしょうだいこんげんとして神格化された姿で描かれている。

本資料の原画は、上野寛永寺かんえいじの貫主公海かんしゅこうかい(東本願寺12世教如の外孫)が、先代貫主であった天海てんかい所蔵の肖像を模写したものである。その後、この像は公海により東本願寺にわたっていた。

時は下って幕末に至り、朝廷のある京都は政局の舞台へと変貌をとげる。尊王攘夷運動が高揚するなか、文久3年正月、将軍後見職の徳川慶喜は上洛して東本願寺を宿所とした。尊崇する東照神君の肖像画を目にした慶喜は、21世厳如ごんじょに依頼してその模写を作成した。こうして、この肖像画が生まれたのである。

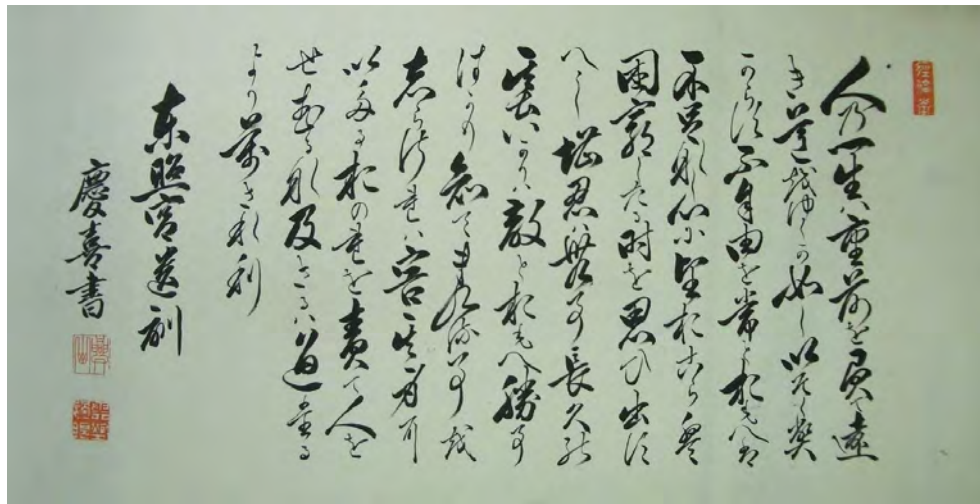
長く続いた戦国の乱世を終結に導き、平和と安定の社会秩序を創出した家康は、軍事・政治の両面における英傑カリスマであった。元和2年(1616)の死とともに、家康は神格化への道をたどりはじめる。本図のような家康の神像は江戸時代をとおして広まり、徳川政権の守護神として人びとの脳裏に刻印されていった。

その英明さゆえに、早くから将軍候補と目され、討幕派に「家康の再来」とおそれられた慶喜は、血統への強い自覚から、終生家康を信奉し続けたのであった。

2. 東照宮遺訓

徳川慶喜筆

明治時代(19世紀)／当館蔵(一橋徳川家記念室)



(印「経綸堂」)

人の一生は重荷を負て遠
き道を行くが如し、いそぐべ
からず、不自由を常とおもへば
不足なし、心に望みおこらば
困窮したる時を思ひ出す
べし、堪忍は無事長久の
基、いか「怒」りは敵とおもへ、勝事
ばかり知てま「負」くる事を
しらざれば害其身に
いたる、おのれを責て人を
せ「責」むるな、及ざるは過たる
よりまされり

東照宮遺訓

慶喜書 (印「興山」) (印「雲煙過眼」)

徳川家康の遺訓を、能書家で知られた徳川慶喜が揮毫^{きこう}したもの。一説にこの遺訓は、水戸藩2代藩主徳川光圀^{みつくに}の「人のいましめ」を、幕臣であった池田松之助^{いけだ まつの すけ}が明治維新後に創作したものともいう。だが、辛抱と努力を説く達観した人生観は、幼少期に長い人質生活を送り、苦節の果てに天下泰平の基礎を築きあげた家康の遺訓にふさわしい。

一方で、最後の将軍慶喜は、カメラを好み、洋食を好み、フランス製の軍服に身を包む、異形の将軍であった。慶喜の西洋志向は明らかで、その積極的な導入を図っていった。そして、近代への扉を大きく開けて、江戸幕府の役割に自ら幕を引いたのであった。

本書は、31歳で将軍職を去り、明治期に入ってからのものである。早すぎる退隠生活に入った奇才慶喜は、まるで過去を忘却するかのように、政治的沈黙をつらぬいた。そして、長い後半生を趣味の世界に投じてゆく。書道はもとより、能、謡曲、投網、弓道、狩猟、囲碁、将棋、さらには写真、油彩画と、慶喜の多才ぶりは枚挙にいとまがない。政治の表舞台を去って、有り余る天分と旺盛な好奇心は、趣味の世界で存分に開花の時をむかえたのであった。

(史料学芸部 学芸課 主任研究員 由波 俊幸)

トピックス

平成 27 年度 上半期の歴史館

歴史館探検ツアー 6 月 14 日（日）

普段は見られない歴史館の裏側を見学するツアーで、年 2 回行われているとても人気のあるイベントです。毎回、沢山のご応募を頂いております。

今回は、文書整理保管庫で昔の茨城の地図を見たり、考古収蔵庫で縄文時代の貝を洗って持ち帰ったり、研究員の指導のもと封蝋（シーリングワックス）体験をしたり、大変内容の充実したツアーとなりました。

子ども達と一緒に参加された保護者の方々にも興味を持っていただき、親子で「楽しかったね！」と笑顔で話していたのが印象的でした。



ピアノコンサート 7 月 25 日（土）

歴史館庭園内の旧水海道小学校に保管されているグランドピアノは、アメリカのスタインウェイ&サンズ社で 1865 年 7 月 25 日に製造されたものです。ちょうど 150 年目の記念日である 7 月 25 日に、平山ピアノの協力によりアニバーサリーコンサートを開催しました。小・中学生を中心とした客席は、スライドでピアノの構造やスタインウェイの歴史について学んだ後、プロのピアニストの演奏を堪能しました。コンサートは 1 日かけて 6 回開催され、350 人の方にご参加いただきました。この日最後に演奏された曲は「ハッピー・バースデー・トゥー・ユー」。誰もが知っている名曲で、ピアノのお誕生日をお祝いしました。



いちょうライトアップ

11月12日（木）～11月15日（日）の4日間、
歴史館のいちょう並木のライトアップを実施します。
昨年大好評いただいたライトアップ、夜空にひろがる幻想的な光景は
一見の価値がありますよ！

入館無料

11月13日（金）は茨城県民の日、どなたでも入館無料です！
展示室では特別展「日本外交のあゆみ」を開催中です。
ぜひ、皆様お誘いあわせの上、ご来館ください。

喫茶コーナー

秋の特別展開催期間中10月10日（土）～11月23日（月）の
土・日・祝日と、11月13日（県民の日）に、いれたてコーヒー
などをお楽しみいただける喫茶コーナーを開設いたします。
皆様のおいでの心よりお待ちしております。



各行事などについてのお問い合わせは、

茨城県立歴史館 教育普及課 電話 029-225-4425

または、ホームページの「お問い合わせ」からメールをお送りください。